

北海道商工業振興審議会 第2回 ものづくり産業振興部会 議 事 概 要

日時：平成25年9月6日(金) 13:55～16:05

場所：北海道第二水産ビル 4階 4F会議室

1 開 会

※ 事務局から会議の成立についての報告

2 挨 拶

○産業振興局長から挨拶

※ 事務局から会議の公開についての報告

3 議 事

(1) 「本道のものづくり産業振興の新たな展開方向」の検討について

※事務局から資料1から3の説明

【主な意見等】

ア 「技術力の向上」、「経営基盤の強靱化」、「市場の開拓・創造」について

- 技術力の向上はものづくりに必須。しかしながら、北海道はこのところが低いのは事実なのでここを育てることは絶対に必要。
- 即国内市場が縮小したので海外を目指すではなく、域内市場をどうするか、それを国内に伸ばしていく、海外に伸ばしていくという三段花火的なものがあるべき。それを実現させるため独自技術を持った企業をさらにステップアップさせるといった絞り込みが必要。
- 工場が身近にあるというのは、北海道の子どもにとって馴染みのない場面。まずは後継していく人間がやることがないから北海道に残るという後ろ向きではなく、北海道で頑張っていくという気持ちを高める場、勉強会の場が必要。
- もっと具体的な表現がほしい。例えば、北海道の農畜水産物が原料で道外にでて付加価値の高いものに加工されているのを北海道で出来ないかもっと掘り下げて、「地産地加工」のようなこと作り上げていくことを示せないか。
- 溶接や金属加工など有名な先生に来ていただいてセミナーをするが、あまり人が集まらない。集まらないのは経営者のスタンス、高齢化、世代交代が進んでいないからではないか。世代交代して積極的に取り組んでいく気持ちが必要。
- 北海道ブランドは海外で非常に評価が高い。必然的に産地偽装や模倣品のターゲットになりやすい。民間団体だけでは弱いので、公的な北海道なりが一緒になった取組が必要。

- 北海道フード特区が認められていて、特に国の成長戦略でも健康産業と海外展開は大きな位置付けになっている。そこを目指していくというのが国の向かっている方向性で、北海道の強みをおさえたものになる。
 - 食料品はものづくりの分野の中で北海道は高く、なおかつ付加価値率が低いという分析が出ているので、それを高めようという取組もひとつ。
 - 北海道の優位性は1次産業なので、付加価値を高め海外展開するのは難しいが、そこは優位性があるが故に取り組むべきところ。
 - 北海道から物を売るのはなかなかうまくないものもありますので、広域連携の形で、例えば沖縄の国産ハブを使って国際展開していくといった広域連携、地域間連携も必要。
- イ 「人材の育成・確保」、「連携」、「企業誘致」について
- 「ものづくりの魅力の発信」、「学校教育と連携した」部分は非常に重要。子どもたちに伝える場、例えば大豆から豆腐が出来ることを地元の人たちが携わっていることをもっと伝えることが必要。
 - 日本鑄造工学会の「鑄造カレッジ」のように、資格は別としても、他の技術分野でも取り組んで、ものづくりをしている人たちがいいものを作っているという誇りを持つような仕掛けが必要。
 - 学生にもものづくりの魅力について、実際に自分で体験さしおもしろさを理解してもらう工夫が必要。先生にどうやって子どもに伝えるだけの魅力を感じてもらっても重要。
 - 「ものづくりの魅力の発信」が長い目で見て必要。長い期間、我慢強くやっていると本当の意味での結果は出せない。
 - 人材の育成・確保で、目標があった方がモチベーションが上がって頑張ろうという気がおきる。民間団体でもいいので、ものづくりの資格制度を作ったら、参加して勉強してみようという人が現れる。
 - 人材育成について、ノーステック財団でヘルスイノベーションカレッジの形で健康食品の産業に係わる人材の育成をしている。既存の事業と方向性を摺り合せた形で進めていくことが有効。
 - 綺麗で清潔な工場であるにも関わらず、最近人は集まらない。北海道は製造業に対するイメージが悪いのではないかとされているので払拭が必要。
 - 「北海道の強みを活かす農林水産業との連携」で、例えば福岡県は、地元の小麦でラーメンにすることを県知事が旗を振って取り組んでいる。北海道は農業の生産高が高いので、重要な農業と手を組む必要がある。
 - 農林水産業との連携は、地場に土地があって、人もいて、それだけの産業もあるので、連携や高付加価値を目指した新たなマーケットの開拓などが必要。
 - 6次化は非常に慎重に考えないと難しい。食品産業は世界規模で動いている企業が多く、勝負する相手が違う。相当根性入れて政策を持たないと難しい。
 - 北海道は広く、地震の心配も少ないので、是非とも北海道のすばらしさを全国に発信して企業誘致に繋げてほしい。
 - 韓国のフードポリスのような大胆な企業誘致策が必要。

ウ 特に重要と考えられる分野について

- 「経営基盤の強靱化」で、他地域はコスト削減や付加価値を高めるため切磋琢磨して、北海道もやっているがレベルアップする必要がある。
- 「人材育成・確保」と「連携」に関して、先入観かもしれないが、企業や商売から学校、特に大学は離れている。連携を学問の方から降りてきてほしい。大学だけではなくて、高校、中学、小学校も時間がかかるが、裾野としてもものづくりに関心を持っていただける素地が必要。
- メッセージ的なものを作るのであれば、「技術力の向上」、「市場の開拓・創造」。共通性や普遍性といったものがないとなかなか伝わらない。
- 製造業としては「技術力の向上」と「人材の育成」。経営資源の一つとしての人材がいないと企業は成り立たない。技術や知識を若い人に継承していけるような体制をとっている。
- ものづくり産業の振興、付加価値を高めて外へ出て行くという意味で全部重要。

(2) その他

- 事務局から次回の予定について説明

4 閉会

出席者			
【出席委員】 ◎部会長（五十音順、敬称略）			
安孫子 俊之	江別製粉(株)	専務取締役	
鴨田 秀一	室蘭工業大学	地域共同研究開発センター長	
◎関根 久修	株式会社日本政策投資銀行	北海道支店長	
土谷 敏行	株式会社土谷製作所	代表取締役社長	
日詰 良子	日詰工業株式会社	代表取締役	
【オブザーバー】 （敬称略）			
一般社団法人 北海道機械工業会		専務理事	山口 俊 明
一般社団法人 北海道農業機械工業会		専務理事	原 令 幸
一般社団法人 北海道バイオ工業会		事業企画・運営委員	
		主幹事	三 浦 健 人
公益財団法人 北海道中小企業総合支援センター		常務理事	野 原 直 彦
地方独立行政法人 北海道総合研究機構			
産業技術研究本部 ものづくり支援センター		研究主幹	畑 沢 賢 一
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構			
北海道職業能力開発大学校		校 長	前 田 康 二
経済産業省 北海道経済産業局産業部		産業振興課長	佐 藤 正 範
厚生労働省 北海道労働局職業安定部		求職者支援室長補佐	佐 藤 好 孝